

きよせ

今号の主な内容

特集
「あなたの今年の目標」を教えてください … 2・3面

市民ルポルタージュ「小金井街道を歩く」… 4面

コラム・お知らせ～information … 5面

スマートフォンなどで市報が読める「広報紙」ダウンロードはこちら⇒



迎春

～ 2016年～

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日ごろより市議会に対しまして、温かいご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。市議会を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

平成二十八年の干支は申年です。実は私も申年生まれなのですが、「申(さる)」は、「しん」とも読み、「伸ばす」という意味があり、草木が伸び、実が成熟して硬い殻に覆われる時期を意味するそうです。その意味で、今年は伸び伸びと活躍する実りある年になるのではないかと思います。今年が市民の皆様にとって明るく素晴らしい年になりますようお願いいたします。

議会では、昨年は市議会議員選挙が行われ、二十人の議員が選ばれました。代表として皆様の信頼と負託に応えるよう、また市民の皆様にとってより身近な市議会になるよう、今後さらに努力していきます。清瀬市は多くの課題を抱えています。清瀬市民の知恵と力を結集していけば、必ず乗り越えることができると思います。皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



清瀬市議会議員
渋谷 のぶゆき

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

今年も申年です。今をはるかに「さる」、縄文時代に思いを寄せてみましょう。昨年郷土博物館が出した「清瀬市野塩地域遺跡群発掘調査報告書」のなかに、何と五千年前の十三普提式土器出土の報告がありました。五千年以上前から野塩には人々が住みついていたのです。また、報告書では、聖徳太子を五代下る文室秋津という武蔵守が八三三年に設置した医療介護福祉施設「悲田処」の比定地としても積極的に肯定しています。つまり、聖徳太子の教えを引き継ぐ文室秋津の人間愛が、昭和の時代に「東洋一のサナトリウム、結核療養のまち清瀬」となり、「世界を結核から守るまち清瀬」となった原点なのです。

さて、平成二十八年度は、「手をつなぎ、心をつむぐ、みどりの清瀬」をまちづくりの基本理念とする「第四次清瀬市長期総合計画」がスタートします。清瀬市の「都市格」を高める取り組みや地方創生に向けた施策の積極的な展開をはじめ、「子育てが楽しい清瀬」を目指す他、農業、商工業を活性化させるための支援、教育環境の改善、さらには、「健康寿命」を延ばす健康増進や介護予防事業の充実に取り組んでまいります。そして、新庁舎建設事業は、基本設計へと進めてまいります。今年もよろしくお祈り申し上げます。



清瀬市長
渋谷 金太郎